

---

# 転生者は原作ブレイクしました

ダークサイド

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生者は原作ブレイクしました

### 【Nコード】

N0909Y

### 【作者名】

ダークサイド

### 【あらすじ】

趣味嗜好がイタイ以外普通の男性が女神様の姉の気まぐれで殺された、彼は女神から提案された特典でFateの世界に女性になって転生した。彼女は原作に介入するのかそれとも原作ブレイクするのか？

## プロローグ（前書き）

この小説は二次創作品になります、そのため原作とは違う展開、オリジナル要素が含まれます、ご注意ください。

## プロローグ

ある日、私の世界は終わりを告げた。私はその日がくるまでは普通の男性だったのに……。

あれは職場から帰る途中だっただろうか、目の前に歪んだ空間があった。

康行「あれ、疲れてるのかな？」

康行はそんなことを思っていた。それが康行の最後の記憶だった。次に康行が目覚めると霧の中のような場所に立っていた。

康行「えっ、なんでこんなところに居るんだ？職場から帰る途中だったはず。」

女神「気がつきましたか？康行君。」

いきなり声をかけられた、康行は声のした方に振り返る。そこには綺麗な女性がいた。

女神「先に謝っておくわ、ごめんなさいね。」

康行「なぜ謝る？」

女神「実は、私の姉が気まぐれであなたをその、殺しちゃったの。康行「嘘だろ。俺をからかうの止めてもらえないだろうか？」

女神「嘘じゃないんです、あなたが最後に見た者は姉の使い魔なの。」

女神いわく、あれは俺がいた世界では死神と言われているとのことだった。

女神「でね、そのお詫びにあなたに二度目の人生を上げるわ。」

女神「で、あなたの趣味嗜好を覗かせてもらったんだけど。」

そこで急に赤面する女神、今、この女神なんて言った……？

俺の趣味嗜好を覗いた……そして赤面してる。ヤバイ、非常にまずい。

女神「……イタすぎますね、この変態。あなたの股間を私の足で踏んであげましょか？」

康行「いえ、結構です、女神様。」

女神「クスッ、冗談ですよ。」

康行「女神様、冗談きついぞ、それはいいとして、なんか特典はないのか？」

女神「特典ですか、じゃあ。」

女神はにこりと微笑むとこういった。

女神「あなたの行きたい世界、能力、性別を選択させてあげます。」

女神の提案は実に素晴らしいものだった。俺は行きたい世界にFemaleの世界、能力にアーチャーの投影魔術、固有結界、膨大な魔力を貰った、性別は女にしてみた。

女神「わかりました、では二度目の人生楽しんでね。機会があったらまた逢いましょう。」

女神「あっ、あなたの家にプレゼント用意してあるからね。」

女神がそう言った瞬間景色が変わり康行は転生者になった。

## プロローグ（後書き）

はじめまして ダークサイドです。初めて書きますので読みにくかったりするかもですが、よろしくお願ひします。

今回は康行についてです、

年齢29歳、髪は黒の短髪です、まあこのへんで、彼もう死んでるんで……。

康行「作者よ現実では私は生きてるぞ。」

ダ「康行どこからこの世界に。」

康行「作者よ俺の設定はあなた自身なんだから、名前こそ違っけどね。」

作者「忘れてた……。」

康行「という訳で、読者のみなさんよろしくね」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0909y/>

---

転生者は原作ブレイクしました

2011年10月31日15時19分発行